

# 博学連携資料「さきたまのネタ」の作成と活用・実践事例

佐々島忠重・向井 隆盛\*

\*行田市立中央小学校

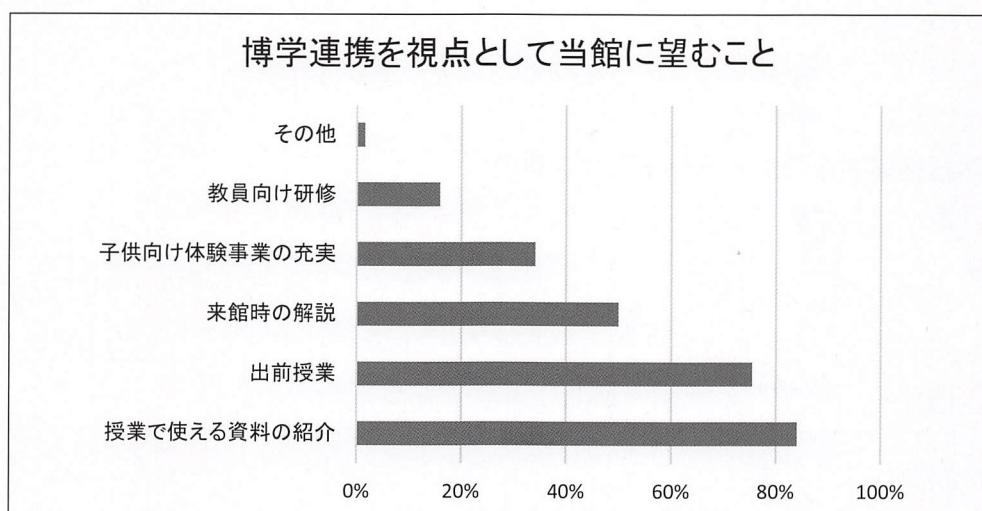
## 1 はじめに

平成29年6月に小学校学習指導要領が改訂され、より「積極的な博物館活用」が示された。博学連携を進めるうえで博物館ができるることは、学校へ利用促進を呼びかけるだけでなく、学校現場のニーズを追求しそれに応える資料や事業を提案することである。本稿では、「埼玉古墳群およびさきたま史跡の博物館に関わるものを教材としていかに授業で活用できるか」という視点で開発した博学連携資料「さきたまのネタ」の作成と活用及び実践事例を紹介する。

## 2 学校団体を利用する教員や児童生徒の実情

### (1)学校側のニーズ

小中学校教員（188名）に「博学連携の視点で、さきたま史跡の博物館にどのようなことを望みますか（複数回答可）」という項目でアンケート調査をしたところ、下記（グラフ1）のような結果であった。



グラフ1 博学連携を視点として当館に望むこと

調査結果から、多くの教員が「出前授業」と「授業で使える資料の紹介」を必要としていることが分かる。また、「来館時の解説」を求める声も多い中、「その他」として、「短時間で何を中心に行せたらよいか分からないので見学のポイントを教えて欲しい」といった意見もあった。学校団体の社会科見学や修学旅行は、複数の場所を見学の行程に組んでいるため、当館や公園の滞在時間はたいへん短いケースが多い。公園で昼食をとり、入館せずに移動してしまう団体は、こうした事情が一因となっていることもある。

以上のことから、小・中学校に短時間の博物館見学を勧める際、当館展示物や古墳群をより重点化して提示することは、今後の学校団体利用を促す意味でも必要である。

## (2)学校のニーズに基づいた博学連携資料開発の必要性

では、重点化の指針となるものは何か。現場の教員や小・中学生に大きく説得力のあるものは、学校で使用している教科書である。金錯銘鉄剣などはまさに顕著な例で、そのものが資料として掲載されているため、引率教員が児童生徒に紹介しやすいものである。しかし、それ以外のものについては資料としての教科書掲載はないため、児童生徒に一定時間の中で自由見学を促すだけになってしまっている。勿論、各自が興味に基づいたものをじっくり見学する行為を否定するつもりはないが、展示物に対しあまり興味のない児童生徒が貴重な見学時間を浪費してしまっている実態も目の当たりにしている。知識や経験といった興味に関する下地の少ない年代の児童生徒にとっては興味の幅に差が大きいのは当然のことである。そのような児童生徒の実態においても、引率教員が見学の視点を彼らに示すことが、有意義な見学につながるのである。

当然ながら教科書掲載の金錯銘鉄剣以外にも児童生徒の学習に有意義な価値のある展示物は数多くある。それを教員や児童生徒に提示する根拠となるものが、学習指導要領である。次項では学習指導要領における位置づけを確認する。

### 3 学習指導要領と埼玉古墳群およびさきたま史跡の博物館との関わり

さきたま史跡の博物館は、国指定史跡埼玉古墳群を中心とする県内の考古資料の収集保管・調査研究・展示公開・普及啓発を使命としている。博学連携の視点で「普及・啓発」を考えると、内容を学習指導要領に則したものである必要がある。

以下、関連する学習指導要領の内容を記す。

#### (1) 小学校学習指導要領の示す博物館活用の意義

まず、第4章－2「内容の取扱いについての配慮事項」には

(3) 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。

とし、「博物館等施設を積極的に活用した社会科見学や調査活動を行うことは、児童の意欲や学習効果を高める上で極めて重要なこと」と明記している。

地域にあるこれらの施設を積極的に活用することによる具体的な学習効果として、

- ・児童の知的好奇心を高め、学習への動機付けや学習の深化を図ることができる
  - ・諸感覚を通して実物や本物に触れる感動を味わうことができる
  - ・学校での積極的な活用を通して、これらの施設を自ら進んで利用できるようになる
- の3点を挙げ、「そのことは生涯に渡って活用する態度や能力の基礎となるもの」としている。

指導計画の作成に当たっては、事前の施設・遺跡・文化財の実情把握、関係施設との連携が大切であるとし、教材研究として学芸員への取材や打合せを綿密に実施することが有効であるとしている。

博物館等を活用した学習指導のねらいとしては、

- ・博物館や資料館、地域や国土に残されている遺跡や文化財などの役割や活用の仕方
- ・それらに関わっている人々の働き
- ・それらが大切に保存、管理されていることの意味

について理解させたり、気付かせたりすることが大切であるとしている。

また、具体的な指導計画例として、下記学年で直接来訪し観察・見学・調査活動を挙げている。

- ・第3学年での市や人々の生活の移り変わりに関する学習
- ・第4学年での県内の特色ある地域の人々の生活に関する学習
- ・第6学年での我が国の歴史学習

当館では、県内小学4年生と県内外小学6年生の来館が多いため、次項よりその2学年の学習および中学校社会歴史的分野との関連を示す。

## (2) 小学校第4学年関連事項

「社会」第4学年の内容

(5) 県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

(内容の取扱い)

(5) 内容の(5)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 県内の特色ある地域が大まかに分かるようにするとともに、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げること。

ここでは、「人々に様々な恵みをもたらしている自然の風景や歴史的景観、文化財などを地域の資源として保護・活用している地域」として、「文化庁により日本遺産に認定されている地域」を例示している。また、取り上げる際には、「その地域の位置のほか、自然環境や産業の歴史的背景、人々の協力関係に着目して調べるようにする」とし、歴史的だけなく、地理的・公民的な見方・考え方を育むことをねらいとしている。

地元の住民、博物館職員、行田市、埼玉県等様々な立場の人たちが、国指定史跡埼玉古墳群を含めた歴史的景観を長年にわたって保護・活用してきたことが該当となりうるであろう。

### (3)小学校第6学年関連事項

「社会」第6学年の内容

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

上記「優れた文化遺産を理解すること」とは、今日まで保存・保護されてきた文化遺産の大切さを理解することとし、取り扱う授業時数に軽重を付け単元の構成を工夫することで学習効果がより高まる、つまり、遺跡・博物館見学や調査活動の推進を勧めている。

具体的に、アの(ア)知識に関わる事項としては、

「古墳」については、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなど、「大和朝廷による統一の様子」については、各地に支配者が現れ、有力豪族による大和地方を中心とした地域の統一が進められたことを理解できるようにする。

アの(シ)技能に関わる事項としては、

例えば、遺跡、土器などの遺物について、地域にある博物館や資料館などを利用して調べたり、身近な地域に残されている古墳を観察・見学して適切に情報を集める技能などを身に付けるようにする。

イの(ア)「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項では、

「代表的な文化遺産」については、「誰がいつ頃作ったか、何のために作ったか、歴史上どのような意味や価値があるか」などの問い合わせを設けて、国宝、重要文化財に指定されているものや日本遺産に認定されているもの、世界文化遺産に登録されているものなどから、児童が理解しやすいものを選択して取り上げ、具体的に調べができるようにする。また、人々の工夫や努力によって生み出され、今日に至るまで保存、継承されてきたことの意味を考え、文章で記述したり説明したりできるようにする。

実際の指導に当たっては、「身近な地域や国土に残る古墳について調べ、豪族や大和朝廷(大和政権)の力を想像する学習」などを挙げている。つまり、当館の役割としては、埼玉県を代表する埼玉古墳群や出土品を教材とし、「古墳時代はどんな時代だったのか」を児童が考えるきっかけとして提示することが求められる。

#### (4)中学校学習指導要領における関連事項

中学校では、社会・歴史的分野において、関連内容が2項目ある。

歴史的分野「大項目A 歴史との対話」

(2) 身近な地域の歴史

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(内容の取扱い)

イ (2)については、内容のB以下の学習と関わらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの地域の施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。

この内容は、生徒自身による調査活動が可能な身近に感じられる範囲内で、歴史上の出来事を具体的な事物や情報から比較や関連させ、「時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながり」などの視点に着目して、歴史を追究する方法そのものを学ぶ学習である。

歴史的分野「大項目B 近世までの日本とアジア」

(1) 古代までの日本

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 日本列島における国家形成

日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、太和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること。

(1)のアの(イ)の「太和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わり」については、古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割にも気付かせることにする。

ここでの「日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰」については、新たな遺跡の発掘の成果や具体的な遺物の発見による「考古学などの成果を活用」し、当時の人々の信仰やものの見方に気付かせるとしている。「考古学などの成果」については、それを報じた新聞記事や地域の遺跡、博物館の活用を図るような学習を紹介している。

また、「太和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わり」については、古墳の大きさやその分布を基に、小学校での学習を踏まえてその勢力の広がりを大きく捉えることができるようにとしている。

### 3 「さきたまのネタ」作成について

平成28～29年度にかけて、埼玉古墳群及びさきたま史跡の博物館の展示物についての学習指導要領との関連を明記した資料「さきたまのネタ」を作成した。

作成に当たっては、以下の方針を確認した。

#### (1)ねらい

- ・教員が社会科授業で参考資料として活用しやすいものにする。
- ・来館・来園引率教員が児童生徒に示す「見学の視点」として活用しやすいものにする。

#### (2)事例や表記

- ・「短時間での見学のポイント」という視点から、10例程度とする。
- ・引率教員は社会科教員とは限らないため、専門的になりすぎず理解しやすい表記とする。
- ・表面は事例の説明、裏面は掲示資料を掲載し、表裏2ページで1事例を紹介する。

#### (3)視点

下記の6つの視点を柱として、まとめることとした。

##### ①学習指導要領における位置づけ

前述のとおり、学習内容は学習指導要領に則したものでなければならない。社会科学習における本教材の必要性の根拠を示した。

##### ②教科書との関連

授業を進める際、教師や児童生徒は教科書の内容を重視する。本教材が教科書のどこにあてはまるのかを示した。

##### ③ネタにまつわる物語

授業には学習のねらいと結論を結びつけるストーリー性が必要となる。本教材を物語の中のどこに位置づけるのか、児童生徒が理解しやすいよう、より簡潔に5行程度で示した。

##### ④考古学の成果から

「ネタにまつわる物語」の裏付けとなる専門的見地における事実の中から、授業で活用できるものを選び3行程度で示した。

##### ⑤多面的な見方・多角的な思考を促す工夫(児童の思考を促す工夫)

社会科授業の展開の中で、児童生徒の思考を深めさせるために必須となる視点や発問を示した。

##### ⑥主提示資料(裏面)

児童生徒に事例を紹介する際の主となる提示資料を示した。拡大すれば掲示資料となるものを選んだ。

### 4 博学連携資料「さきたまのネタ」

前項の方針で作成した博学連携資料「さきたまのネタ」として教材10本を次ページより示す。

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ①埼玉古墳群(小学校第4学年)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第4学年 内容(5)

- ア (ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること
- イ (ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること
- (内容の取扱い) 人々に様々な恵みをもたらしている自然の風景や歴史的景観、文化財などを地域の資源として保護・活用している地域

### ○ネタにまつわる物語

埼玉古墳群は、昭和10年代に地域開発の「土取り」等によって、多くの古墳がこわされてしまった。昭和40年ごろ、地元住民による保存運動と、埼玉県による古墳群の保存整備事業の推進によって、古墳群のよりよい保存と一層の活用を図るために「さきたま風土記の丘」が建設された。以降、埼玉古墳群は様々な人々の工夫と努力によって、守られ、活用してきた。

### ○考古学の成果から

さきたま古墳群の特徴

- ・5世紀後半から150年間くらいの間に築造された。
- ・前方後円墳は西側に「造出し」をもち、周囲を2重の周溝で囲まれている。
- ・前方後円墳の向きがそろっている。

### ○多面的な見方・多角的な思考を促す工夫

#### ①多面的な見方

古墳の保存、古墳の活用、地域住民の憩う公園、子供たちの学習の場など、埼玉古墳群の多様な面に気付くようにする。

#### ②多角的な思考

埼玉古墳群にかかわる様々な人々の視点から、保存・活用について考える。

例 文化財の保存・整備にかかわる学芸員さん

博物館の展示にかかわる学芸員さん

「さきたま火祭り」の実行委員さん

世界遺産サポーターの方

博物館ボランティアの方



写真1 埼玉古墳群全景（昭和43年）  
(さきたま史跡の博物館蔵)

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ②前方後円墳の構造(小学校第6学年)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第6学年 内容(2)

ア(ア) 古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化したことを理解すること

(シ) 遺跡や文化財などの資料で調べ、まとめること

(内容の取扱い) 各地に支配者が現れ、有力豪族を中心とした大和朝廷によって大和地方を中心とした地域の統一が進められたこと、「古墳」については、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどが分かること

### ○教科書では

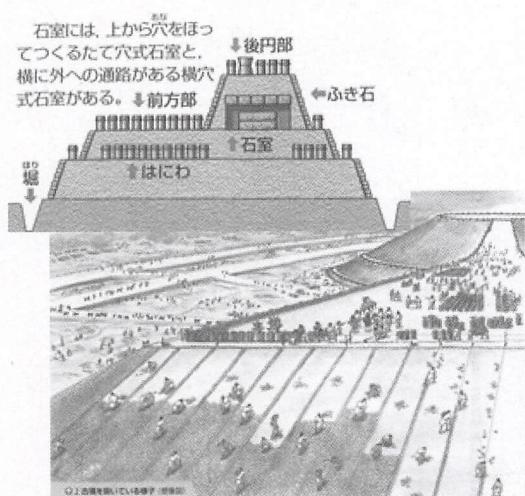


図1 古墳を築いている様子（想像図）

大阪府堺市の大仙（仁徳陵）古墳は、5世紀に  
つくられた日本最大の古墳です。全長は486m、  
高さは35mあり、つくられた当時は、表面に石  
がしきつめられ、たくさんのはにわが並んでいた  
と考えられています。また、内部には石室（遺体  
をほうむる部屋）がつくられていました。

古墳を築くには、すぐれた技術者を指図し、  
多くの人々を動かせることのできる大きな力  
が必要であったと考えられています。その力  
の大きさは、古墳の石室の内部の様子や出土  
品からもわかります。

図2 古墳についての記述  
(東京書籍「新しい社会6年上」より転載)

### ○ネタにまつわる物語

畿内で造られはじめた前方後円墳が、やがて大和政権の勢力の拡大とともに、その力の及ぶ範囲において造られるようになった。

### ○考古学の成果から

- ・前方後円墳は、定められた規格に基づいて造られた。
- ・稻荷山古墳と将軍山古墳の建造には100年間の差がある。

### ○多面的な見方・多角的な思考を促す工夫

- ・多面的な見方

前方後円墳が地方でも造られるようになったことは……

大和政権の勢力が地方にまで及んだ。

地方に現れた支配者は、前方後円墳を造ることができる力をもった。

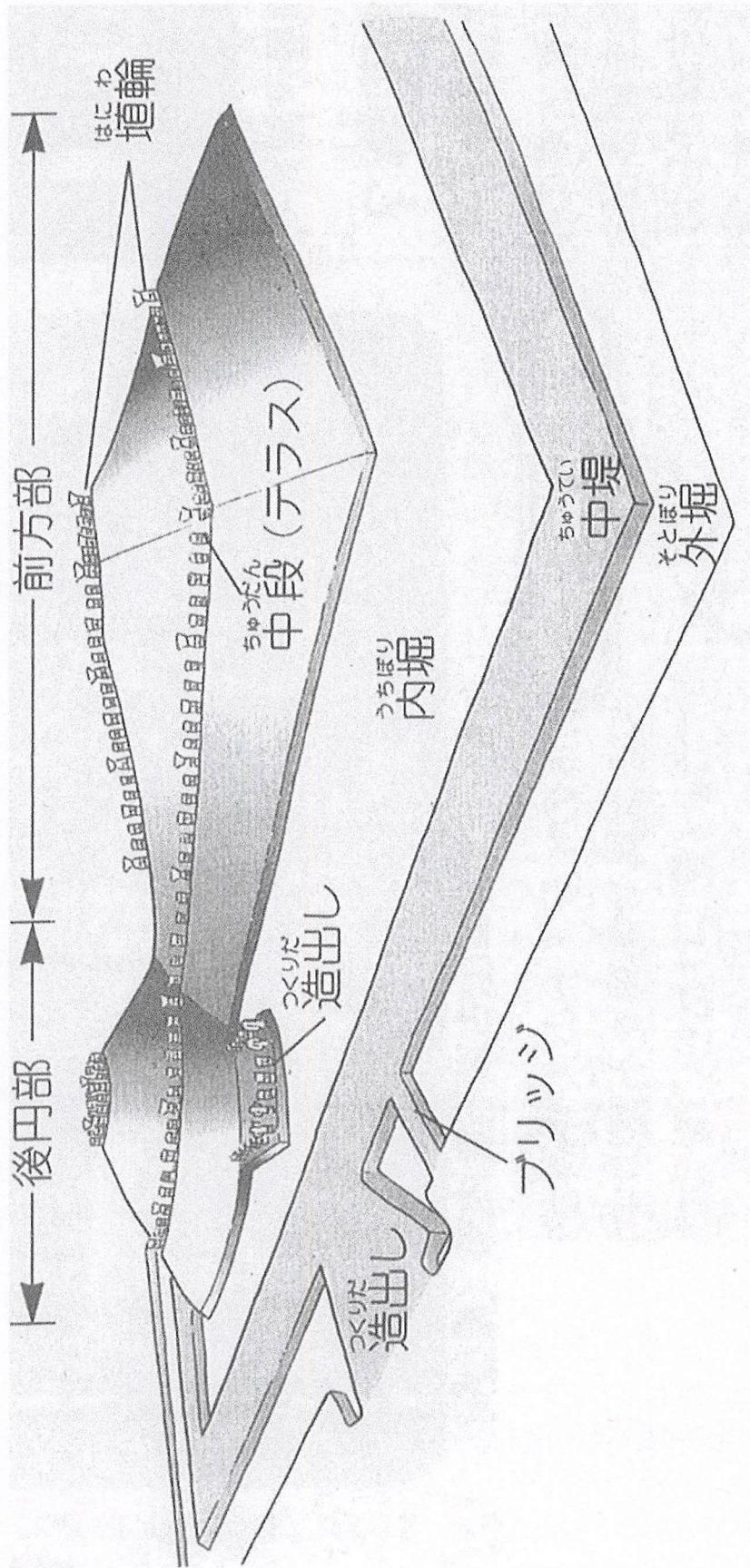


図3 将軍山古墳の構造（復元図）  
ひきたま史跡の博物館「ヲワケ君の古墳探検Ⅰ—よみがえった将軍山古墳—」より転載

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

### ③金錯銘鉄剣(小学校第4学年)

#### ○学習指導要領では

小学校社会科 第4学年 内容(5)

ア (ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること

イ (ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること

(内容の取扱い) 人々に様々な恵みをもたらしている自然の風景や歴史的景観、文化財などを地域の資源として保護・活用している地域

#### ○ネタにまつわる物語

行田市は、国宝の金錯銘鉄剣が出土した稻荷山古墳を含めた埼玉古墳群を観光資源として生かし、毎年4月に「行田市鉄剣マラソン大会」を開催している。県内外からおよそ4000人近いランナーが出場し、古代蓮の里や埼玉古墳群などを眺めながら、古代文化の地を楽しんでいる。

#### ○児童の思考を促す工夫

「『鉄剣』にはどのような人たちがどのような工夫や努力をしながら関わっているのでしょうか。」

- ・国宝として文化財の保存・整備にかかわる博物館の人たちは、鉄剣の価値を広く知つてもらい、後世に伝えたいと思っている。
- ・鉄剣マラソン優勝景品として土器カップを作っている「はにわの館」の人たちは、土器やはにわを作り、行田に来たたくさん的人に楽しんでもらおうと思っている。
- ・世界遺産サポーターの方たちは、鉄剣の出土した埼玉古墳群を世界中の人々に広く知つてもらい、多くの方に訪れてもらいたいと思っている。
- ・鉄剣マラソンの運営を行っている行田市の方たちは、参加者に古代スープを振る舞つたり応援したりして、多くの参加者に行田のまちを楽しんでもらいたいと思っている。



写真2 鉄剣マラソン優勝カップ（行田市教育委員会蔵）

## 小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

### ④金錯銘鉄剣(小学校第6学年)

#### ○学習指導要領では

小学校社会科 第6学年 内容(2)

ア(ア) 古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化したことを理解すること

イ(ア) 代表的な文化遺産に着目して、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること

(内容の取扱い) 国宝、重要文化財に指定されているものなどから、児童が理解しやすいものを選択して取り上げ、具体的に調べることができるようとする。

#### ○教科書では



図4 ワカタケル大王と二つのはなれた地域の古墳

やまとちょうてい  
大和朝廷と国土の統一 今の近畿地方には、大きな  
な前方後円墳がたくさんつくられていたことがわ  
かっています。このことは、この地域に大きな力  
をもった豪族(王)たちが早くから現れ、それぞ  
れのくにを治めていたことを示しています。  
その中で、奈良盆地を中心とする大和地方に、  
より大きな力をもつ国が現れました。この国の中  
心になった王を大王(後の天皇)、この国の政府  
を大和朝廷とよびます。

図5 大和朝廷についての記述  
(東京書籍「新しい社会6年上」より転載)

#### ○ネタにまつわる物語

埼玉県稻荷山古墳出土の鉄剣と熊本県江田船山古墳出土の鉄刀に「ワカタケル大王」の名が刻まれている。遠く離れた埼玉と熊本で同じ天皇の名が刻まれた刀剣が発見されたということから、5世紀末には大和朝廷(政権)の勢力が地方にまで及んでいたことがわかる。

#### ○考古学の成果から

- ・金象嵌文字の内容は、「辛亥の年七月記す。私、オワケの祖先は、代々、大王の護衛隊長を務めてきた。私はワカタケル大王が奈良県シキの宮で政治を行う際に補佐した。この名剣を作り、これらの功績を記念する。」と書かれている。
- ・出土した須恵器から、辛亥の年は471年であることがわかる。
- ・ワカタケル大王は倭王武にあたり雄略天皇であるとされる。

#### ○多面的な見方・多角的な思考を促す工夫

- ・オワケとはどんな人物なのか、稻荷山古墳に埋葬されているのは誰か？
- ① 武蔵の豪族で、中央に出仕し、鉄剣を持ち帰り、死後に副葬された。
  - ② 中央の豪族で武蔵に派遣されてきて、そこで死んだので鉄剣とともに稻荷山古墳に埋葬された。
  - ③ 名前の分からない武蔵の豪族が中央豪族のオワケに仕え、功績を認められて、オワケの剣をもらった。その後、武蔵に帰郷して死んだ後に、剣を副葬された。

表

裏

辛亥年七月中記乎猿居豆上祖名意同田比塊其兜多加利呈尼其兜名  
立已加利獲居其兜名多加彼次獲居其兜名多沙鬼猿居其兜名半互比

其兜名加美波余其兜名乎猿居豆世ニ为杖刀人首奉秉未至今猿加多支上因大王寺  
在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉秉祖但也

(表銘文) 辛亥の年七月中、記す。ヲワケの臣。上祖、名はオホヒコ。其の児、(名は) タカリのスクネ。其の児、名はテヨカリワケ。其の児、名はタカヒ(ハ)シワケ。其の児、名はタサキワケ。其の児、名はハテヒ。

(裏銘文) 其の児、名はカサヒ(ハ)ヨ。其の児、名はヲワケの臣。世々、杖刀人の首と為り、奉事し來り今に至る。ワカタケ(キ)ル(口)の大王の寺、シキの宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事の根原を記すなり。

図6 金錯銘鉄剣（さきたま史跡の博物館蔵）  
「ガイドブックさきたま」より転載

## 小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

### ⑤鉄の武具・工具 (中学校歴史的分野)

#### ○学習指導要領では

中学校社会科 歴史的分野 大項目B 内容(1)

##### ア(イ) 日本列島における国家形成

大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること  
(内容の取扱い) 古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割にも気付かせる。

#### ○教科書では

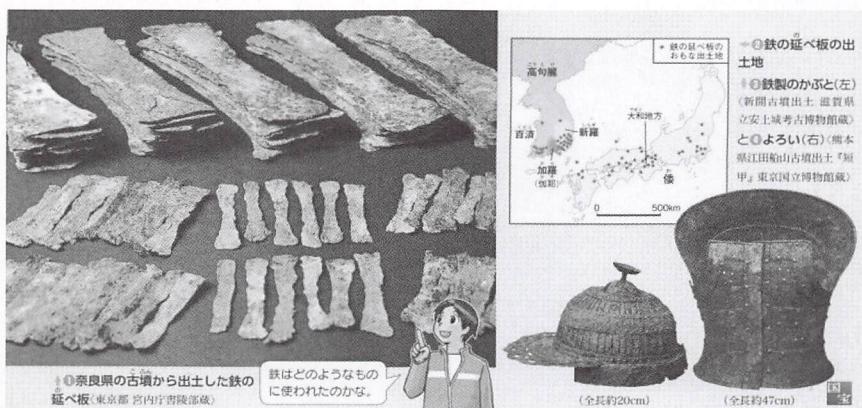


図7 古墳から出土した鉄の延べ棒と鉄の武具  
(帝国書院「中学生の歴史」より転載)

#### ○ネタにまつわる物語

鉄は、延べ板のような形で朝鮮半島から伝わり、農具や武器に活用されるようになった。各地の豪族は、朝鮮半島とつながりの大きかった大和政権と結びつきを強めようと、貢物や兵力を提供する代わりに鉄や技術を与えた。大和政権の力は鉄を媒介としてより広まつていった。

#### ○考古学の成果から

- ・稻荷山古墳からは、鉄の武器・馬具だけでなく、工具も出土している。被葬者が様々な工人たちを支配していたことを表している。

#### ○生徒の思考を促す問い

- ・「鉄の出土地と前方後円墳の場所がほぼ同一ということからどんなことが考えられますか。」
  - 大和政権と鉄の関係が深い。
  - 鉄文化を取り入れ、くにを豊かにしようと地方の豪族が大和政権に従った。



図8 けいこうこざね  
挂甲小札と挂甲（復元図）

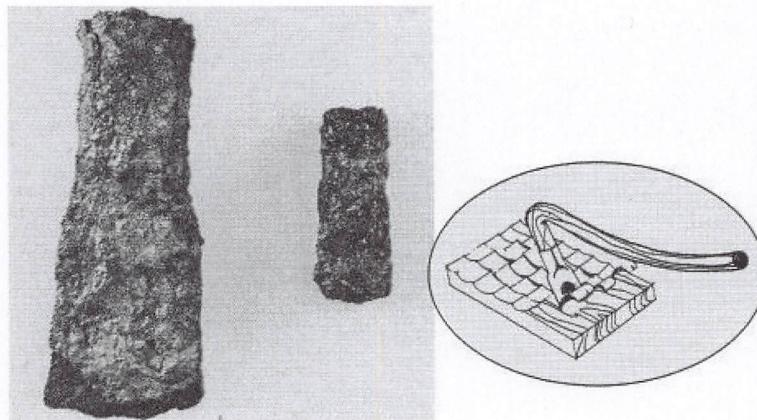


図9 鉄斧てつぶ

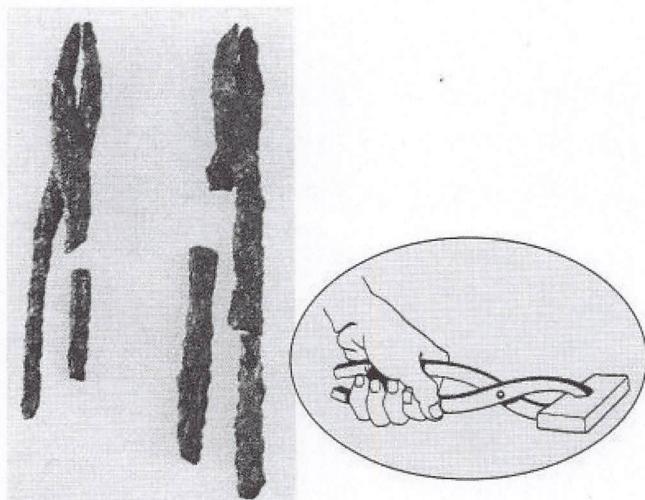


図10 鉄鉗かなはし

(上記出土品はすべてさきたま史跡の博物館蔵)

「ガイドブックさきたま」より転載

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ⑥画文帶環状乳神獸鏡(小学校第6学年)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第6学年 内容(2)

ア(ア) 古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化したことを理解すること

イ(ア) 代表的な文化遺産に着目して、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること

(内容の取扱い) 国宝、重要文化財に指定されているものなどから、児童が理解しやすいものを選択して取り上げ、具体的に調べることができるようとする。

### ○ネタにまつわる物語

神獸鏡は、弥生時代の終わりから古墳時代の終わりに中国でつくられた。当館の神獸鏡は、5世紀になって中国で踏み返されたものである。地方の豪族がヤマト王権の本拠地に出向き、軍人である「杖刀人」や文官である「天曹人」として大王家に仕え、鏡を大王家から分け与えられた。

### ○考古学の成果から

- 当館の神獸鏡は、初めにつくられた中国の神獸鏡から型をおこし、その型から再び造られた踏み返しの鏡である。
- 稻荷山古墳と同じ鏡は、全国6箇所から見つかっている。

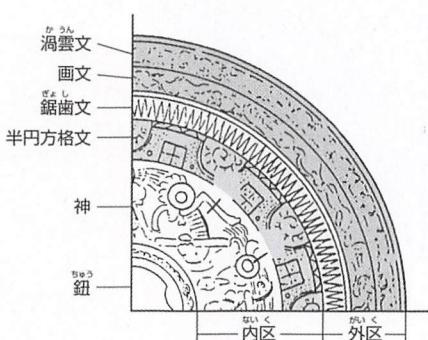


図 11 鏡の文様の名称



図 12 稲荷山古墳と同じ鏡の分布  
(「ガイドブックさきたま」より転載)

### ○児童の思考を促す問い

「『画文帶環状乳神獸鏡』は、なぜ稻荷山古墳に副葬品として納められたのでしょうか。」

- ヤマト王権とのつながりを示す重要な品であったから  
→ヤマト王権の勢力が北武蔵にまで及んでいた。



写真3 画文帶環状乳神獸鏡（さきたま史跡の博物館蔵）  
「ガイドブックさきたま」より転載

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ⑦まが玉(小学校第4学年)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第4学年 内容(5)

ア(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること

イ(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること

(内容の取扱い) 人々に様々な恵みをもたらしている自然の風景や歴史的景観文化財などを地域の資源として保護・活用している地域社会

### ○ネタにまつわる物語

埼玉県では、まが玉16個を円形に並べたものを県章としている。稻荷山古墳からは翡翠製のまが玉が出土し国宝となっている。埼玉県名の由来である「幸魂(さきみたま)」の「魂」は、「玉」の意味でもあり、まが玉は、埼玉県にゆかりの深いものとなっている。

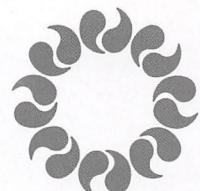


図13 埼玉県章  
(埼玉県HPより転載)

### ○考古学の成果から

- ・まが玉は、熊の牙、翡翠、碧玉、メノウ、コハク、ガラス、滑石など様々な材料で作られた。
- ・古墳からは、まが玉を首飾りとして身に付けた王や巫女の埴輪が出土している。
- ・まが玉の形は、①胎児をイメージした生命の象徴、②三日月をイメージし月を崇めていた、③獣の牙をモデルとして、我が身を護る(魔除け)の意味があったとも考えられる。

### ○児童の思考を促す問い合わせ

「埼玉県の県章には、どんな願いが込められていると思いますか。」

→太陽のような形なので、これを見た埼玉県民が、「情熱をもって力強く頑張ろう」と思えたらしいよいなという願い。

→一人一人が力強く生活して県を発展させてほしいという願い。



写真4 勾玉（さきたま史跡の博物館蔵）  
「ガイドブックさきたま」より転載

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ⑧円筒埴輪(小学校第6学年・中学校歴史的分野)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第6学年 内容(2)

ア(ア) 古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化したことを理解すること

中学校社会科 歴史的分野 大項目B 内容(1)

ア(イ) 日本列島における国家形成

大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること

### ○教科書では



写真5 朝顔形のはにわ

(東京書籍「新しい社会小学校6年上」より転載)

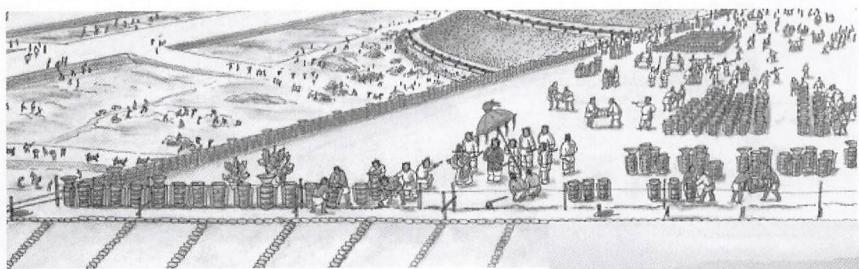


図14 古墳を築いている様子（想像図）  
(東京書籍「新しい社会6年上」より転載)



写真6 五色塚古墳（全長194m復元、神戸市）

(帝国書院「中学生の歴史」より転載)

### ○ネタにまつわる物語

吉備地方(今の岡山県)の墳墓に備えられていた「特殊器台形土器」を大和政権が取り入れ、それが変化して円筒埴輪になったといわれる。前方後円墳とともに、各地に広がっていった。

### ○考古学の成果から

- ・朝顔形埴輪の口縁は、特殊器台に乗せられた壺が変化したと考えられる。
- ・円筒埴輪は、古墳の区画を分ける境界の役目を果たしていると考えられる。
- ・円筒埴輪の透孔は、捧げものの印であると考えられる。

### ○多面的な見方・多角的な思考を促す工夫

- ・多面的な見方

大和政権は勢力を広げる中で、地方の文化も取り入れていった。

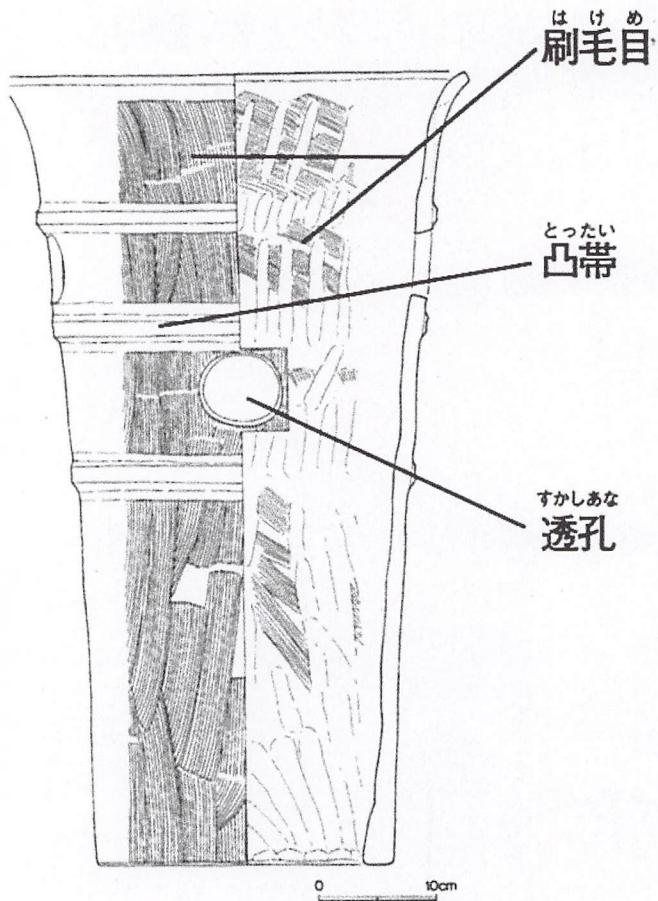


図 15 墓輪の名称

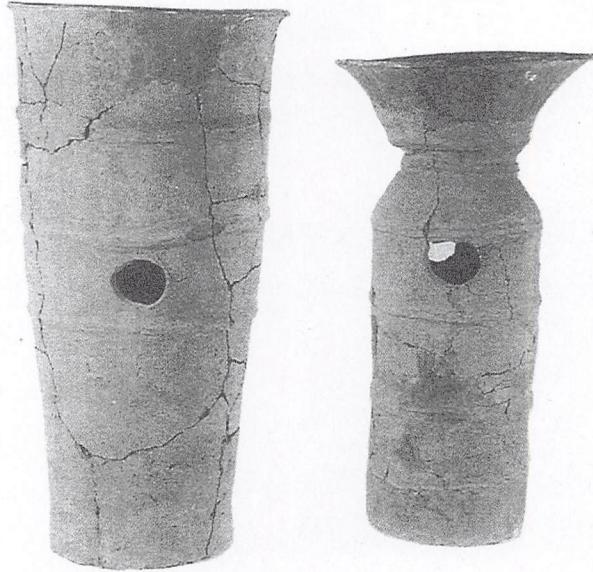


写真6 円筒埴輪と朝顔形埴輪（將軍山古墳出土）

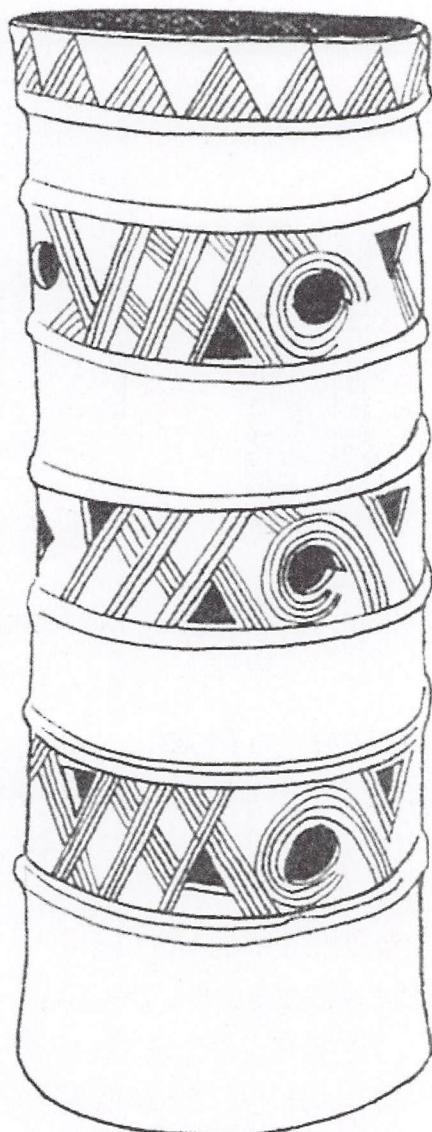


図 16 特殊器台形埴輪

さきたま史跡の博物館「將軍山古墳II一埴輪一」より転載

小学校社会科・中学校社会科歴史的分野に対応した「さきたまのネタ」

## ⑨形象(人物・動物)埴輪 (小学校第6学年・中学校歴史的分野)

### ○学習指導要領では

小学校社会科 第6学年 内容(2)

ア(ア) 古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化したことを理解すること

中学校社会科 歴史的分野 大項目B 内容(1)

ア(イ) 日本列島における国家形成

大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること

### ○教科書では



図17 形象埴輪  
(帝国書院「中学生の歴史」より転載)



図18 墓輪と祭祀に関する記述  
(帝国書院「中学生の歴史」より転載)

ヤマトタケルノミコトは、武勇にすぐれた皇太子でした。ヤマトタケルは、天皇の命令を受けて、九州へ行って、クマソを平らげ、休む間もなく、東日本のエミシをたおしました。

ヤマトタケルは、広い野原で焼きうちにあつたり、あれる海とたかたりして、苦労をしながら征服を進めました。

ところが、都へ帰る途中、病氣でなくなってしまった。すると、ヤマトタケルのたましいは、大きな白鳥に生まれ変わつて、都の方へ飛んでいきました。

⑦神話中のヤマトタケル

図19 ヤマトタケルに関する記述  
(東京書籍「新しい社会6年上」  
より転載)

### ○ネタにまつわる物語

人物や動物の埴輪は群像として置かれ、生前の王の姿やその役割を表す場面を配下の人々に偲ばせる役目を負っていた。その地域に大きな力をもった支配者(王・豪族)が現れ、それぞのくにを治めていたことを示している。

### ○考古学の成果から

- ・形象埴輪は、王の魂の在処を守るために古墳頂上に壺・家・盾・蓋を置いたのが始まりだったと考えられる。
- ・埴輪の並び方で様々な場面を表していたことがわかる。

### ○児童・生徒の思考を促す問い

- ・「なぜ形象埴輪を古墳に立てたのだろう。」  
→形象埴輪は王を葬る古墳に飾るためだけのものだった。
- ・「古墳以外から形象埴輪が出土していないことからどんなことが考えられるか。」  
→形象埴輪は庶民が趣味で作る類いのものではなかった。



写真7 琴を弾く男子（さきたま史跡の博物館蔵）

## ⑩馬胄等馬具 (中学校歴史的分野)

### ○学習指導要領では

中学校社会科 歴史的分野 大項目B 内容(1)

#### ア(1) 日本列島における国家形成

大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること(内容の取扱い) 古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割にも気付かせる。

### ○ネタにまつわる物語

乗馬の風習は古墳時代になって朝鮮半島から伝わり、馬具も前方後円墳とともに、各地に広まっていった。馬はとても貴重で有益な動物で、その馬を飾りたてることは、権威の象徴でもあった。

### ○考古学の成果から



- ・将軍山古墳(6世紀末)の副葬品の馬具を稻荷山古墳(5世紀末)のものと比較すると、朝鮮半島とのつながりの深さが顕著になっている。
- ・将軍山古墳副葬品の馬冑や旗ざお金具(蛇行状鉄器)は高句麗の重装騎兵の装備であり、重装騎兵戦法が発達しない日本での出土は数例しかない。

図20 高句麗双檻塚古墳の壁画(馬冑と旗ざお金具がある)

(「ガイドブックさきたま」より転載)

### ○生徒の思考を促す問い

- ・「騎馬文化はどのようにして日本に広まっていったのだろう。」
  - 日本にやってきた渡来人が広めていった。
  - 朝鮮半島で軍事活動を行っていた倭の武人が馬を輸入し、広めた。
- ・「騎馬文化の波及によって、人々の生活はどのように変わったのだろう。」
  - 軍事・農耕・荷役・情報伝達等様々な分野で馬の力を活用するようになった。  
(人力から馬力への転換)
  - 馬の生産・流通、飼育・調教、馬具生産など技術を渡来人から教わった。



写真8 馬冑（さきたま史跡の博物館蔵）

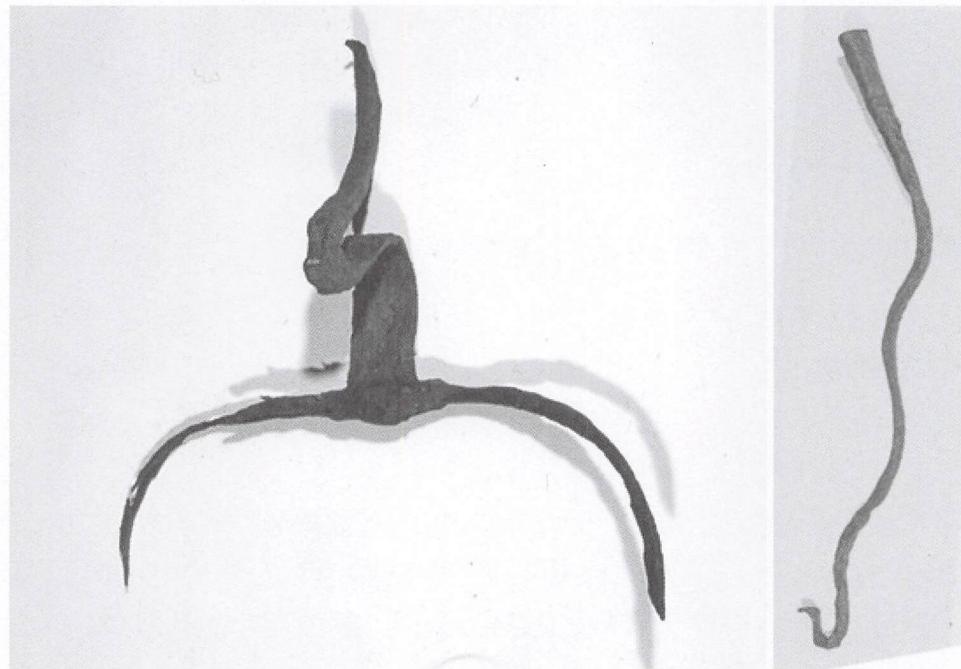


写真9 旗ざお金具（蛇行状鉄器）（さきたま史跡の博物館蔵）

「ガイドブックさきたま」より転載

## 5 「さきたまのネタ」活用の実際

### (1) 活用事例

#### ①博物館活用講座「授業で使える考古学」

平成27年度から、博物館活用講座「授業で使える考古学」を実施している。これは、博学連携をめざし教員を対象とした学習支援事業である。講座概要を下記に示す。

- ・講義：「博学連携の必要性とさきたま史跡の博物館の役割」
- ・見学：埼玉古墳群および国宝展示室
- ・演習：遺物を活用した授業モデルの紹介・検討

以上のような内容を通じ、教員が授業で活用できるような知識・技能を身に付けることができるようすることをねらいとした。28～29年度においては、資料「さきたまのネタ」と関連づけながら講義・演習を行うことにより、埼玉古墳群及び当館の展示物を教材として扱う意義を明確にすることにつなげることができた。

#### ②小・中学校初任者研修「みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修」

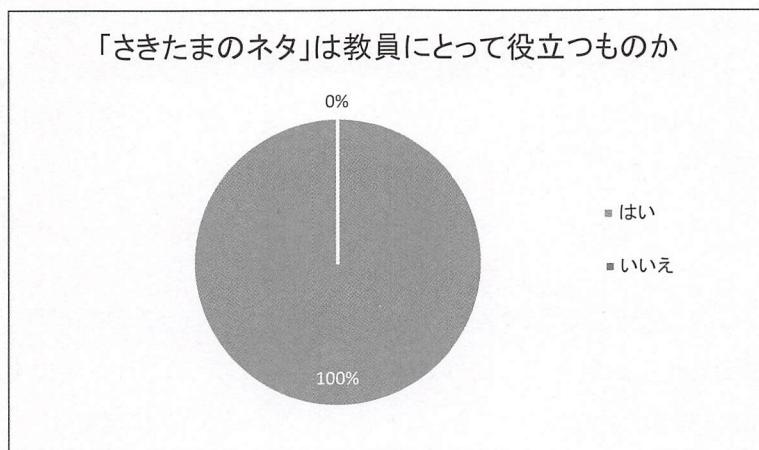
平成29年度は、埼玉県立総合教育センターと連携して埼玉県採用の小・中学校教員初任者約180名を対象とした施設体験研修を受け入れた。埼玉県の歴史についての見識を深めることをねらいとしているため、まが玉づくり体験や埼玉古墳群および国宝展示室見学を行った。その際に、資料「さきたまのネタ」と関連づけて紹介することで、その後の演習「施設を活用した授業プランづくり」に役立つことができていた。

#### ③県政出前講座

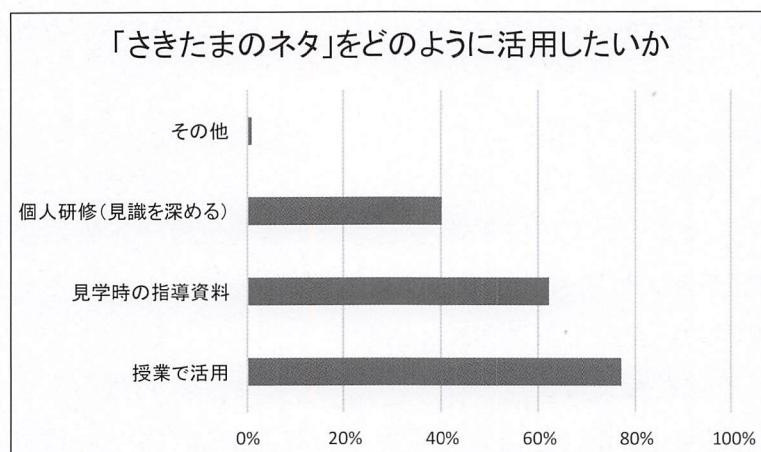
平成29年度から県政出前講座の対象を一般県民団体だけでなく、学校にも広げて受け入れることになった。11月には共栄大学の教養学部「歴史学」の一環で、小学校教員志望の学生に講義を行った。埼玉古墳群の概要についての理解をねらいとしていたが、「さきたまのネタ」と関連づけて紹介することで、学習指導要領の位置づけを意識した視点での理解につながったようであった。

### (2) 教員の声

上記「博物館活用講座」および「初任者研修」参加教員を対象にアンケート調査を実施した。調査項目および結果は下記の通りである。



グラフ2 「さきたまのネタ」の有用性



グラフ3 「さきたまのネタ」の活用方法

調査結果(グラフ2)から、参加者全員が「さきたまのネタ」は「有効である」と答えた。また、グラフ3から「見学時(前後)の指導資料」「授業での補助資料」としての活用を期待する回答が多かった。以上の結果から、本資料が学校教育において一定の意義として認められたと考える。

勿論、実際に資料を活用後、児童生徒の変容につながっていなければ、教育的な成果として認められないことであるが、それは今後の課題としたい。

## 6 今後の課題

今回紹介した資料「さきたまのネタ」を児童生徒の実態に即した教材として活用いただけるよう、学校現場の教員の声を反映させながら連携を図っていくことが課題である。例えば、「さきたまのネタ」で示した視点を活用した児童生徒用ワークシートを作成したり、それを用いた見学・調査プログラムを作成することなどを検討する必要がある。

## 7 おわりに

資料「さきたまのネタ」は、教員が当館見学時の指導の重点化を図ったり教材としての視点としたりするためのものとして作成したが、博物館職員が学校教育の内容を理解するためのものとしても有効であることに気付いた。博物館には学術的にみてたいへん価値のあるものが数多くある。それを来館者のニーズに応じてかみ砕き、重点化してわかりやすく示していくことが大切である。今回作成した「さきたまのネタ」が、学校現場と博物館双方のニーズをつなぐ資料となれば幸いである。

### 《引用・参考文献》

文部科学省 2017 「小学校学習指導要領解説社会編」「中学校学習指導要領解説社会編」

北俊夫ほか 2015 「新編 新しい社会6年上」東京書籍

黒田日出夫男ほか 2015 「中学生の歴史・日本のあゆみと世界の動き」帝国書院

埼玉県立さきたま史跡の博物館 2014 「ガイドブックさきたま」